



11月、イラワジデルタ下流のエイヤワディー地域は稲の収穫作業の最盛期です。地域内のCS生産圃場では、普及員による収穫前の圃場審査が行われており、普及員が忙しく活動しています。一方、中央乾燥地のシュエボー県はようやく出穂期が始まるところで、こちらでも普及員による圃場審査が行われています。CSの品質を左右する最後の重要な時期であることから、プロジェクトもC/Pとの会議、現地普及員研修、BSモニタリング、CSの啓発活動など、連日東奔西走して活動を行っています。

PIC会議 7日、ネピドーの農業局会議室にて、第4回PIC会議を農業局との合同で開催しました。JICA本部担当者によるJICAのミャンマーへの農業支援の概要に続き、プロジェクトの活動報告、9月に実施した本邦研修の報告、今後の活動計画の発表が行われ、プロジェクトの活動報告では、CS認証手続きに要する時間についての報告に、議長の農業局長を中心に参加者間で活発な意見交換が行われました。(写真左：PICの様子 右：PIC後の参加者による記念撮影)

BSの刈り取り 7日農業研究局(DAR)で、第3回BS品質管理モニタリングを行いました。多くの品種を増殖するDARでは、品種が混じらないよう、最新の注意を払って収穫・調整が行われていました。



第4回普及員研修 ピャボン、パテインにて第4回普及員研修を実施しました。今回は講義の翌日に丸1日かけて「圃場審査の実習」を実施。圃場審査のサンプリング方法、全株調査との比較、実技テストを行いました。(写真左：一列に並んで全株調査。中：種粒の水分管理は重要な課題。研修の機会に、ケツト社のハンディ水分計を対象地域全タウンシップ・種子農場・種子検査ラボに供与しました。右：供与した水分計を使って、早速研修時に適切な測定方法を指導し、皆で実習しました。ハンディ粉すり機も付属しているため赤米チェックにも有効。これからどんどん活用してください！)



圃場審査実技試験 県種子担当者を対象に、圃場審査の実技試験を行いました。講師と専門家が目を光らす中で審査を実施。評価する側もされる側も緊張した面持ち。評価の難しさは身にしみましたが、実技試験の形をとることで実習よりきめ細かな指導ができました。

ステークホルダー会議 20、25、28日にマヤウンマ郡普及所にてステークホルダー会議を開催。CS生産農家と精米業者間の円滑なCS売買について協議しました。また、CS品質の理解促進のための種子精選機のデモも行いました。

圃場見学会 5、9、13日にカンジダウン、ミヤウンマ、ピャボンにてコメ生産農家と精米業者等を対象に、CSの販売拡大を目的として、CS生産圃場と、CSを使用したコメ生産圃場の見学会を開催しました。参加者は均一に揃った稲穂を見て、CS使用に興味を示していました。



エイヤワディー地域の収穫作業が一段落しました。今年は水害が少なく、作柄が良いようです。12月からはシュエボーが繁忙期に入ります。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)